

中齋塾 東京フォーラム
平成 25 年度 第 8 回講話

平成 25 年 9 月 14 日
於 湯島聖堂

色々な「点」や「実験」の話

最初に質問しますが、お米好きな方どれくらいおられますか、玄米はいかがですか。では、玄米を美味しいと思う方はどれくらいおられますか。

(塾長) - 結構おられますね。結構、食べますか？

(会員) - 噛むと美味しくなる

(塾長) - ああ良く噛むと美味しい。口に含んで一回噛んでみて美味しいなと思う方はいますか。(多数、手が挙がる)

これは実験ですが、昨日美味しくなった玄米というものを戴きました。新幹線の本庄早稲田駅近く、早稲田の国際リサーチパークという研究室へ 30 人位でお邪魔をしました。

お米を美味しくする技術を開発して諸国に輸出をしたいということでした。伺いましたら、おにぎりを 30 個ぐらい用意して戴いたので頂戴しました。口に入れた瞬間「あれ、美味しい」と思い、そこの先生の説明を聞いていたら、食べ物を片端から調べて美味しくするにはどうした良いかを考えたそうです。殺菌の場合でも、高温で殺菌をすると壊れてしまうので、低温で殺菌をして研究室の加工技術を使って甘みを出す。それからアミノ酸を 3 倍にする。人間が美味しいと感ずるのは、どこら辺かというのを調べて加工技術の特許を取った。

色々な人とお付き合いをしていますと、たまたま聞いているもの、心に残っているものが色々結びつくものです。

前にも申しあげました縦・横の学問があり、またそれらに「点」がつきます。点とは、色々な人にお会いして色々な体験をする。何かあった時に聞いて、心に残るようだったら、事実を調べに即座に行動をする。

仮に今はオリンピックですかね。オリンピックという話が増えると、オリンピックに関する情報が増えてくる。そうすると点が面が変わっていく。面が変わってひとつのゾーンを埋め尽くせば、悟り、ひらめき、そういうものに繋がって人類の発展に大いに貢献するとまで持っていく人もいるし、持っていない人もいる。でも出来るだけ人類の役に立つものだなと考えながら自分の動きを律すれば良いと思います。

先ほどの玄米の加工技術を発明して、香港とシンガポール特にアジア関係に研究者が説明に行っているそうです。昔は商社等、商売をする人が色々出掛けて行きますが、研究

者はあまり出掛けないですよ。…今は積極的に行きますか。最近の研究者は商売氣がありますからね。私がお会いする教授というのは型破りな人が多いのかもしれない。

この間、木内顧問がおられる会議に出席しました。その会議は、朝7時10分からでしたので、顧問が事前準備をどうやっているのか氣になって、私は6時50分にお伺いしました。そしたら東北大学の先生が中心になって、およそ商売に関係なさそうな会議を一生懸命していました、最終的には全部商売に結び付けるような会議でした。

東北大学の先生が居ましたから「東日本大震災の時には、東北大学の学生さんはボランティアでよく動かれていましたが2名自殺しましたね、自衛隊員も2名自殺をしましたね」と話をしました。そしたら「その後も亡くなっていて、現時点で東北大学の学生が心を病んで7名自殺をしています。あまり世には出していないのですが、東北大学の先生方は心のケアをするのに、てんやわんやで今も大変です」という話をしていました。この手話はあまりマスコミではしません。

何か氣になったものは出掛けて、現場にいる方、現場で直接体験された方と話をすると私の心の中に響くものがあります。点と線ではなく、響くものは現地に行かないと分からないし、感じれば感じるほど感性が研ぎ澄まされてきて感じ方が変わってくると思いますので、出来る限り色々な方に出会いましてハッとと思うような出会いをするのが、良いなと思います。

お米の美味しい加工技術というものを聞いて、ヒョイと浮かんだのが「神様」です。

「奇跡のリンゴ」の話は前に申し上げましたけれど、木村秋則さんが約10年かけて生きるか死ぬかの思いをしながら、美味しいリンゴを作ったという話です。そのリンゴは日が経つと腐るというより、だんだん萎んでクシャクシャになるというのを聞きました。そのお話を読み聞き見たのと同時に、宗教関係者と「ある呪文を唱えたと長く生命が保てる」という話をしました。私は実験をするのが好きでして、何も書いていない紙と呪文の書いてある紙に梨を乗せて置きました。しばらくは変わらないのですが3カ月ぐらい経つと呪文の書いてある果物は萎んで、まっさらの紙は持ちました。イメージとは違う結果でしたが、何かひとつのイメージが湧くと、それに類するものがヒョイと浮かぶのです。

昨日は大宮で食事会があり、お喋りをしたのですが、お喋りの中で西郷隆盛の話をちょっとしていましたら、隣に座っていた人が「あれ、西郷さんはあばら骨だよ」「良くご存じですね」と言いましたら「私の従兄弟が沖永良部島の出身で、私は沖永良部島にしょっちゅう行っているのです」とのことです。「ああ、話が繋がりましたね」と、ひとしきりお喋りをしてきました。沖永良部島には、あばら骨が浮き出た西郷像が残っていますし、建物も残っています。あばら骨が浮き出るような食事は、塩をパラパラと掛けたお米を食べるだけで、確かにやせ細るなと思います。

今、私が話しているのは「点」の話です。あちこち点在しているものが繋がり合って一つに集約するという話です。一見脈絡のない話をしていますが根っこでは繋がっています。西郷さんは、あばら骨が浮き出る身体をしていましたが、それはそのような食事をしてい

たからです。でもゆっくり良く噛んだから美味しいことは美味しかったとは思いますが、物量は足りない。

私は体重がまだ多いから「減らしましょう」とかかりつけのお医者さんに言われたので、ダイエットをしようと思いましたが、すでに色々試していますので、後は何が残っているだろうと相談をしていたら「たんぱく質を取るのを止めたら」と言われたのが3か月前。「でも何も取らないのもなんだから、一日35グラムにしたら」と言われました。「根拠は？」と聞いたら、何かの学術論文に体重の半分と書いてあったそうです。カラアゲ1個30グラム、カロリーではなくて量です。言い方を変えますと肉は駄目、魚は駄目、豆は駄目、私が美味しいなと思って食べるもの皆駄目。これはクレアチニンという数値を調べる為にやってみました。自分でびっくりしたのですが一ヶ月半実行をしたら、筋肉が削げ落ちました。上半身の肉は簡単につくがなかなか落ちない。ただし下半身の肉は落ち、内股の肉が削げ落ちました。人体実験を試みたら一ヶ月半で効果が表れました。削げ落ちるのはどうということはないけれど、氣力が萎えます。電車に乗るとすぐ座りたくなる。お喋りをしている間は元氣よく話せるのですが、話し終わるとクタクタになってしまう。一ヶ月位で効果が出てきてクレアチニンを調べたら、あまりこちらは効果が出ていないので、もうちょい続けようと思いましたが氣力の萎え方、体力の落ち方が凄まじかったので、人間にとってたんぱく質というのは必要なんだなと思い人体実験を終了しました。3カ月は続けようと思ったけれど2カ月で止めました。かかりつけのお医者さんは「筋肉が落ちたら止めようかね」と軽い。側で聞いていた看護師さんは「命に関わるから、そんなことは止めてください」と言っていました。

今申し上げたのは、お米を美味しく食べる。その加工技術の特許を取って諸外国に売りに行く話。西郷隆盛のあばら骨が浮き出るような食事はどうであったか、期間はどれくらいか。それらを私は人体実験をして、それが最近の検査でクレアチニンの数値が出てくる。これら色々なものが重なりあって点と線が交わって新しい何ものかが誕生します。

世間はオリンピック招致が決まった話題が多いようですが、オリンピックが決まって良かったなと思う方はどれくらいいますか。(数人手が挙がる)

オリンピックが決まって、これは良くないと思われる方は？

お二人おられる。何故でしょうか。

(会員) ー経済効果が気に入らない。

(塾長) ーうん、なるほど。

昨日の食べ物のところから、どんどん連想が膨らんで人体実験まで申し上げたのですが、何故オリンピックは今でできたかと言いますと、私はオリンピック招致が決まったと聞いた瞬間に「あらあら困ったな」と思いました。世間は「良いね、良かったね」と、経済効果なんかを引きあいに出していました。何故「困ったな」と思いますのは、前から「日本はどんどん坂道を転げ落ちている。平成29年にそれらしき政治家が誕生して、上向きに日本はなり、そこら辺まで頑張りましょう」という言い方で申し上げましたけれど、心の中

では底まで行ったらポンと跳ね上がる原動力ができていますので、きちんと下まで辿り着くのかなと思っていたところにオリンピック招致でした。「そうか、オリンピックは日本の国を悪くする役割をもって招致された」と感じました。見た目は良いのですよ、パッと見たら経済効果もあるし精神的なものも良くなるし、文化は発展するし文明論的にいっても良いと思いますが、その大きな流れの波での、小さい良いこと悪いことの繰り返しの中でオリンピックが来るということは…良いと捉えれば、ちょっとは良いです。ちょっと良いことですが、負の側面を見ると 100 年後 200 年後の未来からで見ると「オリンピックを契機にしてドンと日本経済は落ちたね、日本の精神的なものも一見良くなったけれどドンと落ちたね、あああれが坂道まで落ちた時のけん引力だったな」という風に後世出てくるだろうと感じます。

良いことだと思った方は短期的に見て良い、長期的に見て良いかは分かりませんが、両側面があると見てオリンピックを御覧になると良いと考えました。

恒例の質問

- ・夏の間中、嘘はほとんどつかなかったと思われる方。
- ・ひと夏良い日が続いたな。これは少ないですね。
- ・有難うと言う、言われる機会が多かった。

有難うと言われるのは比較的少ないものです。年配になればなるほど、人に感謝する言葉を言っても言われる人は減ってきます。有難うと言われるのが多いということは良いことだと思えます。私はたいしたものだと思います。誰も褒めなかったら、自分で自分を褒めることをすれば十分です。

- ・夕べ寝る時、今日のことをイメージして過去形で眠れた方。

大きい病気にかかると、そういう感性が砥ぎすまされるみたい。みんな生きるか死ぬかという体験をすると、その感覚が砥ぎすまされるみたいです。

大学の同窓生を対象に「同病あいあわれむ集い」というのをやることにしました。還暦を過ぎると生きるか死ぬかという病氣は起きるようです。だいたい聞いていると 60 代の間に、死の四重奏というのになります。パッと思いついて電話をした 5~6 人は同病あいあわれむ会の有資格者でした。

紹介書籍

『心魂にひびく言葉 一森 信三 語録一』 寺田一清 編述 到知出版社

次は、心に響く言葉。魂という言葉が出ているからこれも良いです。どうぞ御覧ください。

今、読んでいて面白いなと思ったのは『人間の性は何故奇妙に進化したのか』という本です。御自分の精子は一回射精した時にどれくらいの量が御存じの方？

(会員) ー2億ぐらいでしょうか？

と、言われているようですね。最近は草食系の男子が増えていて、減っているようです。1億数千万個の精子が射精されるそうです。そのような事が書いてあります。凄い数の競争を勝ち抜いて戦ってこの世に誕生した。何故その様なことを話しているかといえば、今、点を意識して喋っています。

御覧になっている本の中にペニシリンを発見したのは偶然の産物だったと書いてあります。ペニシリンを発見した人が風邪を引いて細菌を培養している時にくしゃみをし、あまり気にせず旅行に出かけていたら、培養液の中で青カビが頑張っていて、それがペニシリンの素になった。この世にペニシリンが生まれるためには、鼻水がポタンと落ちなければ、また、旅行して忘れていなければ、青カビを発見した後に一生懸命やろうという気持ちがなければ、ペニシリンが出来なかった。

他に面白いことは偶然の成せる産物。原子爆弾も偶然。ダイナマイトを発見した時にはニトログリセリンを容器に入れて保存していた。そしたら容器が壊れてしまって中身が出てしまった。周りは珪藻土のようなものがあって、ニトログリセリンを凝固させた。その固めたものが安定剤になった。一生懸命研究を重ねていったらダイナマイトを発明した、それも偶然の成せる技。人間が人類史上、すごい発明だと思われるようなものは偶然が作りだしてくる。偶然とは、この点を沢山お持ちの方が見つけることが出来る。

明治神宮で中江藤樹が作った「処世と月を見て偶成」を奉納吟詠しました。歴史上の人物は漢詩を作っていますが、たまたま漢詩を作ったという「偶成」が非常に多い。たまたま作り、たまたまそういう気持ちになった。偶然というのは必然だろうという気がしています。

述という考え方

何故この様なことを言うかと言えば、ダライ・ラマと繋がります。ダライ・ラマ 14 世が来日して「これからは、日本民族の出番です。何故ならば、自然を畏れ敬う民族、自然と共に生きる民族は日本をおいていない。ヨーロッパ系の民族は自然を征服する。戦って自分の思い通りに作り変えていく。自然を征服する民族と自然と共にいく民族。これからは自然に畏敬の念をもつ民族行動する民族が、21 世紀の世界を引っ張っていかなければいけないですね」という話をしていました。

今、色々と申し上げていたものは、あちらとこちらに繋がってきました、点の考え方。我々は縦の学問をやっていますが、陽明学という学問の中の話の色々な形を変えて申し上げていますし横の学問も必要だと申し上げています。学問をする時には連綿と続きます。論語でいえば「述」という言葉。前の世代から受け継いで自分達の世代で開花させて次の世代に繋げていく「述」という考え方は、論語の根幹を成すと思います。

私は一番が「述」、二番は「仁」という風に考えています。そうすると、ものの考え方、

こうするんだよという理性は、誰かに教わらなければ分からない。これは後天的にできたと感じます。

感じるというのは、どうして感じるのか。遺伝子でいけば植物も動物もたった 4 つの暗号から生まれているということですが、全部そういう考え方や動き方というのは、みなプログラミング化されている。誰がそんなことを考えたのか、誰がそういうプログラミングを作ったのか。遺伝子レベルで考えると訳の分からないことがあまりにも多すぎます。

日本人は畏れ敬う気持ち、心を持っている。心と魂とは、ちょっと違うんじゃないか。魂も和御霊と荒御霊という考え方があります。

来月、私は出雲大社に、その次には伊勢神宮にも参ります。出雲大社が 60 年、伊勢神宮が 20 年の遷宮です。伊勢神宮はお陰参りというのを 60 年に一回します。20 年、60 年のサイクルというのは、日本人の中に根付いていると思うのですが、誰がそのようなことを考えたのか。誰がそのようなことをプログラミング化したのかと思うと「なにごとのおわしますかはしらねども かたじけなさに 涙こぼるる」と詠んだ西行法師。畏れ敬うという気分、神社に行くとお賽銭を入れなければいけないかなと思ってポケットを探ってしまい挿んでくる。何で日本人は神社やお寺に行くのか、キリスト教で結婚式を挙げるのか、仏前結婚もあり凄惨な民族ですね。何で日本人は生れ育ち死んでいくのかというのを考えると、人間では分からない、目に見えないものが世の中にはあるのだなと最近強く感じます。それが畏れ敬う気持ち。やはり親の存在を考えると親が生まれる前に祖父母その前にもいた。連綿と血のつながりを考えていくと縦の学問と一緒にになります。そういう風にして思うと、やっと中身に入りますが、基本哲学「知足」に至ります。「足るを知る」という言葉は、今日の論語の中に繋がります。

「子貢政を問う。子曰く、^{しよく た たみ}食を足し、^{これ しん}民之を信ずと」

信ずるということは、国民が国を信ずる、周りの人々を信ずる。心の働きで信ずるという考え方は、畏れ敬う心がないと生れてこないものの考え方。それから人の一生涯を貫く考え方で、これができれば死んでも良い、本望だという考え方が持てれば素晴らしい。

この事業を成功させれば死んでも構わないとか、誰かが重い病に罹って自分の命と引き換えに助けて戴きたいという思いは良くありますよね。この間、花火会場で屋台から出火して子供を庇い、母親が火傷で亡くなったことがありました。母親は無意識の内に庇うのでしょう。これを意識的に自分の命がなくなっても助けたいと思う気持ちは、たいがいの人間はお持ちでしょう。そういう機会があるかないかはまた別。そういうことを考えて実行するという風に、やっぱりこれも何かプログラミングされていると思うのです。そういう存在を考える時期があるのかなという気がしました。今ここにおられる方は有資格者です。

吉田松陰の句で「かくすれば かくなるものと知りながら やむにやまれぬ 大和魂」という句もありますが、どうでしょうかね。この仕事が出来れば、あの方を助けられるなら死んでも構わんとか、自分の命を差し出してもよいからこれを何とか達成したいと思っ

たことがある方、またはこれから思い、そうだと思う方どうでしょう。

これはなかなか難しいですね、カルネアデスの舟板ですもの。大嵐で船がひっくり返り、ハッと気がついたら板につかまって自分がプカプカ浮いている。そこへ誰かが必死になって近寄って来た。誰だったら助けますか？それとも来るなとします？でも来るなとしても法律で認められていますよね。正当防衛、緊急避難という考え方です。向こうから近寄ってきて板につかまると二人とも沈むというのが目に見えている状況の時ですから、近づいてきた時に、母親や子供だとか伴侶…伴侶はどうでしょうか。…心の中にあるからね。でもそういう極限状態に、身を置かないと本当のところは分からないみたいです。正常な時に、そう考えて抗するだろうと思っけていても実際は違う行動を取るらしいから。

死というものと引き換えにという考え方が大きなキーワードになってくると思います。

今月のテーマ「ありがとう・おかげさま・もったいない」

今年は本質・大局・歴史をずっと追いかけています。「人の本質は」と考える時、死というものがキーワードになると思っています。

自分の命と引き換えにという考え方や行動というのは、その人の人生が輝くという風な感じがします。そうすると理性というのはどこか飛んで、感じ方、感受性これが原点。

人間の本質は何かと問えば、色々な角度から見ると、心や魂です。

魂は先ほど言いました出雲大社の和御霊と荒御霊がありますが、それを象徴するような像が出雲大社にあります。感じるというのが人間の基本の原動力になると思いますし、理性は後からついてくるものという風に考えます。「ありがとう」「おかげさま」「もったいない」という言葉。その言葉を考えると死というものが、ベースになっている。

ご飯を食べる時にお腹がすいたと思っけて食べますか。食べ方はそれぞれですが、お腹がいっぱいの時に時間が来たら食べますか？

(会員) ーいえ

食べるものは、だいたい命があるものです。「いただきます」は良く言われますが、貴方の命を戴いて自分の命に変えていきます、有難うございます、感謝。そうすると死というものを見つめて感謝が入ってくる。

おかげさまは、どうでしょうか。生きている、命を戴いて食事をする。死と繋ぐという観点を考えてみると、おかげさままでは、直接何々のお陰でというより、誰のお陰か分からないけれど、みんなひっくるめてお陰様でとやりますでしょう、そうすると感謝がある。

有難うという言葉も同じです。有難うという言葉は、滅多にない事が起きるということです。お釈迦様が弟子の阿難に「有り難い」という言葉を「盲亀浮木の譬」で説明したものがああります。盲の亀が海底から 100 年に一度海面に浮かび上がってくる。そこに漂っている流木があり、その流木に小さな穴があいている。「100 年に一度浮かび上がった亀が、

プカプカ浮いている流木の小さな穴に頭が入った。こういう事は良く起こることかね」と、お釈迦さまが弟子の阿難に聞いたら「そんなことは起こらないでしょう、あり得ない」お釈迦様は「でもお前が人間として生れたのは、そういう状況で生れたのだよ」

お釈迦様は2億個の精子とは言わなかったでしょうけれど、現代人には2億個の精子も一緒に盲亀浮木の譬に入れたら相当の競争を勝ち抜いたのだと思う。「有り難い」というのは滅多にないことが起きた。だから、それは有り難い。どなたかの存在か分からないけれどもお陰さまで有り難い。

今の科学者は心のサイエンスというのに目を向けつつあるようでして、心を科学的に分析、解析をしたい。魂の存在を科学的に証明したい、解析してみたいという方向で、どんどん進んでいるようです。非常に良い時に我々は生れたのだと思います。

文明史学でいえば、約一千年単位で文明が移り変わる。今の文明が終わると、次は東洋文明に移り変わってこようとしている真只中に我々がいる、その時点で日本に生れたという有り難い状況下で我々はものを考えられます。

素読論語解説

寺小屋論語素読サミットなるものが、この間大阪で開催されました。論語素読が広がってきていると思います。2回目もあるでしょう。その打ち合わせが来月神戸であるので行って参ります。

素読をする時には必ず現代に置きかえ、身の回りのことに置きかえて読む。学問としてその文章を理解しようとするだけでは、ちょっと困る。読む時に、孔子やお弟子さんは幾つぐらいの年齢かなどをイメージ化するとよいでしょう。

【五】し ぼぎゅう 司馬牛 うれ 憂えて曰く、ひと 人 みな 皆 けいてい 兄弟有り、われ 我 ひと 独り亡しと。し かいわ 子夏曰く、しょう 商 これ 之を聞けり。しせい 死生 めいあ 命有り。ふうきてん 富貴天に在りと。くんしけい 君子敬してうしな 失うこと無く、ひと 人と うやうや 恭しくれいあ 礼有らば、し かい 四海の内 うち 皆兄弟なり。くんし 君子 なん 何ぞ兄弟無きことをうれ 患えんやと。

司馬牛が「みな兄弟があるのに、私はいない」本当は四人兄弟なのですが、縁を切ったからいないと言っています。でもこれは兄の桓魋が孔子を襲って殺そうとした動きをした為、縁を切って「私には、兄弟はいない」と言っているだけです。それを聞いて子夏は「天の命ずるまま」「人知を尽くして天命を成す」一つ一つの文字を解釈して自分に置きかえて読んでいくと、思い入れの句が出てきます。

血の繋がった兄弟がいらない。縁を切った兄弟がいたとしても、ものの考え方がピタリと一致をすれば、たとえ現世で血のつながりが無くても前世で一緒だったかもしれない、兄

弟だったかもしれない。考え方が一緒だったら、みな兄弟であるとお考え下さい。

一つ一つの文章を読んでいて先ほどの点で色々なものに広がっていくと、偶発的にヒョイと浮かぶものがある。

【六】子張、明を問う。子曰く、浸潤の譖り、膚受の愬え、行われざるを明と謂うべきのみ。浸潤の譖り、膚受の愬え、行われざるを遠と謂うべきのみと。

浸潤の譖りは、先ほど回しました『洪沢論語』をお読みになると良いでしょう。

誰かを陥れようと考えます。例えば「あなた顔色悪いね」という中傷を他人に立て続けて言ってごらん下さい。それを毎日続けていたら、本当にその人の顔色が悪くなってしまふ。浸潤の譖りとはそれです。膚受の愬えは、例えば今横行している「母さん助けて詐欺」が膚受の愬えそのものです。この場合の「明」というのは、眼が良く見えることを明と言います。眼が良く見えるというのは、心の動きも良く見えてくる。心の動きが良く見えてくるというのは、人物を見抜くことが出来る。人物を見抜くことが出来るところまでいけば明。その次に「行われざるを遠と謂うべきのみ」とは、それらが実行でできる。「遠」という文字は、「明」を遠方の方まで、先々までと捉えれば良いでしょう。これは「明」だけ分かれば文句なしです。

【七】子貢、政を問う。子曰く、食を足し、民之を信ずと。子貢曰く、必ず已むことを得ずして去らば、斯の三者に於て何れをか先にせんと。曰く、兵を去らんと。子貢曰く、必ず已むことを得ずして去らば、斯の二者に於て何れをか先にせんと。曰く、食を去らん。古自り皆死有り。民信ずる無くんば立たずと。

孔子が60歳代の頃のお喋りです。60歳代の師匠と30歳代の弟子の問答だと思えばよいでしょう。

子貢という人物は、目から鼻に抜ける素晴らしい人物。今日の新聞記事で、孫さんが太陽光発電でとありましたが、子貢は孫さんみたいなものだと思います。貨殖の述に長けている。利殖の才に恵まれているということでもどんどん儲ける、儲かる。その様な能力があるのが子貢。

その人間が孔子に対して「政治はどうやれば良いですか、国を治める為にはどうしたら良いですか」と聞きました。孔子は「まず食べ物を満足させる。軍備を完全なものにしよう。国民に国を信頼させる。これが肝心だよ」と言ったら、子貢が「どうしようもない理由で三つの内一つを削るとしたら何を削りますか」と聞きましたら、孔子は「軍備を削る」子貢は「その次の食と信頼、どちらを取れば良いでしょうか」と聞きましたら、孔子は「食

べ物を削れば良い、信頼が大事だ」と答えました。国家がきちんと機能する為には、国民の信頼が無い国は駄目だと答えました。

現代に置きかえて考えますと、日本はどうだ、北朝鮮、韓国、中国、ロシア、ちょっと離れましてアメリカ、ヨーロッパは、それぞれの国の歴史を置きかえて考えると色々なものが見えてきます。今問題なのは中国がポイントを握っていることでしょうか。

連想ゲームで繋がる

先ほど福島県の佐々木さんと名刺交換をしましたが、当フォーラムは福島に関係が御座います。福島県で活動している新樹会代表の渡邊五郎三郎先生に中斎塾フォーラムでお話をして戴きました。また、知人が田村市にいまして、福島と聞いた瞬間ポンポンと浮かんできました。どういう訳だが、その知人が「釣り鐘があるので是非あなたにあげたい」という会話をしましたが、私はまるっきり忘れていました。口先で「有難う」と言ったら、本当に持ってきました。これがけっこう重たいので、よく持って来たものだと感心しました。名刺交換をしたら釣り鐘を思い出した。連想ゲームで繋がっているのです。昨日もテーブルを挟んでお隣の方と話をしていまして一息入れたら、向かい側に居た人がみんな立ち上がって名刺を持って「今のお話の中の何とかと関係がありまして…」とポンポン来られた。どうも声が大きかったようです。小さい声でぼそぼそと話すより大きい声で喋っていますと名刺交換で来られるんだなと思いました。悪くはないだろうけれど秘密の話はできないですね。

新聞から政府のあり方をみる

新聞を見る時には、点で見ます。点で見る訳ですが横の学問の考え方で、新聞を御覧になったら一つのテーマを追いつけていますと、おやっと思ふものが出ます。

今日の朝日新聞で、シャープが新しいテレビを開発して、お年寄りがテレビをオンにすると「今日の体調はいかがですか」とテレビに出る。それに対してテレビに「元氣よ」とか返事をする。「具合が悪い」と言うとすぐ駆けつけるという「高齢者見守りサービス」というのを利用者は月 2800 円程度でシャープがやると出ていました。今、お年寄りを見守るものについては、お年寄りがトイレやお風呂に行く回数、トイレに入って長すぎると駆けつけます、無意識の内に体調管理をされているというのが当たり前になっていますけれど、今はテレビを見てお互い「元氣」とやるのですから変わってきました。高齢者見守りサービスは専門にする会社が業種としていくつもあります、仕事として広がる部分があり、テレビの活用は具体的になってきたなと思いました。そうすると、そういうものに対して政府が考えることは、法人税等の減税。導入した家庭にはこれぐらい減税をするとか、開発した企業には法人税を安くしますというのに繋がると思います。

横の学問で法人税から見ると、シャープが出てきた、テレビだ、見守りのビジネスが広

がる、そうすると税金を安くする動きが出るだろう。今回、税金は消費税を上げるのが確定的で、8%の次は10%を当然睨んでいるでしょうし、その先も政府としては睨んでいる訳だから、税金のあり方、作り方、体系が変わってくるし、変えようとしている。官僚はそういう動き方をするぞというものが、ここのシャープから見えてきました。色々やっていますが何のことはない、朝三暮四を政府がやっているよと新聞を見て感じました。

政府が発表するものの意図は、どこにあるかというものを思いながら新聞を見る。そうすると目先だけ、刹那主義で動いている、今の若い方がどんどん増えている。これは政府にとって嬉しいでしょうね、コントロールしやすいから。

ものを考えない年代層が増えている。目先しか見えない人間が増えている。でも、今ここにおられる皆さんは、ものを考える力や行動する力を持っているから、私が成すべきことは何かと考えて動く良き時代に入っていると感じます。少なくとも3年間ぐらい、そういう考え方で動いて戴くことを切に希望致します。